

持続可能な未来を 考えるための10冊

次世代へ真に豊かな未来をつなぐために、
私たちができることは何でしょうか。
今号で紹介した事例の理解を深める10冊を紹介します。



6 『地球の未来のため僕が決断したこと —— 気候大災害は防げる』

マイクロソフトの創業者ビル・ゲイツが、気候危機の解決策を示した話題の一冊。なぜ温室効果ガス排出量を「実質ゼロ」にする必要があるのか、そのために何をすべきかが丁寧に説明され、人類の置かれた状況を理解できる。現状は厳しくとも、新しい技術の力で「ゼロ」を達成できると著者自身が信じていると伝わる良書。

ビル・ゲイツ=著 山田文=訳
早川書房 / 2021年



1 『すべては森から —— 住まいとウェルビーイングの新・基準』

建築家である著者は、スリランカやアフリカなど世界各地の“森林共生住宅”を見聞。森林がもたらすウェルビーイングについて、深く考察をめぐらす。医学、芸術、建築、林業……と幅広いテーマが、森を媒介に住まい=暮らしと密接につながるとする本書は、「ヒダクマ」(2頁)の目指す森と人の幸福な関係に確かな輪郭を与えてくれる。

落合俊也=著
建築資料研究社 / 2020年



7 『サーキュラーエコノミー実践 —— オランダに探るビジネスモデル』

廃棄を出さず、資源として循環させる新しい経済システムとして注目されるサーキュラーエコノミー。その先進国オランダと日本国内の事例が、本書では豊富に紹介されている。環境問題への取り組みは成長を否定せず、経済発展と両立できる。次世代のビジネスモデルを学べば、ポジティブな未来が描けるのではないだろうか。

安居昭博=著
学芸出版社 / 2021年



2 『日本人はどのように自然と関わってきたのか —— 日本列島誕生から現代まで』

日本人の自然観はどう形成されたのか。列島誕生以来、時代ごとの人間と自然の関わりを、生物学・気候・地理・地質学などから掘り下げた本書は、人口・経済・政治との関係まで幅広く論じる。長年、欧米の日本研究をリードしてきた著者の新鮮な視点は、私たちの環境意識を考えるうえで多くのヒントを与えてくれるだろう。

コンラッド・タットマン=著 黒沢令子=訳
築地書館 / 2018年



8 『おもしろい地域には、おもしろいデザイナーがいる —— 地域×デザインの実践』

地域のリブランディングに、広義のデザインは欠かせない。本書はヒト・モノ・カネで不利な状況のなか、ユニークな成果をあげる各地の若手デザイナーを紹介。顔の見える関係を大切に、自ら店に立ち、販路も考える——土地ならではのデザインとともに、彼らの働き方や暮らしぶり自体がサステナブルと思わせる納得の一冊だ。

新山直広・坂本大祐=編著
学芸出版社 / 2022年



3 『POSITIVE DEVIANCE —— 学習する組織に進化する問題解決アプローチ』

標準からはずれた発想や行動で、前向きな成果を導く「ポジティブな逸脱者 (PD)」たち。本書はそんなPDの役割と、その力を積極活用するためのプロセスを、データや事例に基づき詳説する。環境問題をはじめ、今日的テーマを解決しうる新たなアプローチは、「痛みを感じている人」が担うという林氏 (2頁) の主張と通じ合う。

リチャード・バスカルほか=著 原田勉=訳・解説
東洋経済新報社 / 2021年



9 『追いつめられる海』

世界のウミガメの52%が体内にプラスチックを飲み込んでいる——驚きの数字を交え、本書が警告するのは猛烈な勢いで進む海洋プラスチック汚染の実態だ。なかでも、北極海 (!) まで到達しているマイクロプラスチックが、海洋生物を通じて再び私たちの体内へ押し寄せている事実は、解決へ向け一刻の猶予もない現状を痛切に突きつけている。

井田徹治=著
岩波科学ライブラリー / 2020年



4 『プラスチック・フリー生活 —— 今すぐできる小さな革命』

製品ごとの素材や特性、健康や自然に与える影響など、私たちはプラスチックについてあまりに無知なままだ。身の回りのプラスチックに注目し、依存度チェックやリデュースへの工夫など、具体的な視点から検証する本書は、世界的環境リスクであるプラごみ問題が、自宅のキッチンと直結していることを改めて実感させてくれる。

シャンタル・ブラモンドンほか=著 服部雄一郎=訳
NHK出版 / 2019年



10 『2025年「脱炭素」のリアルチャンス —— すべての業界を襲う 大変化に乗り遅れるな!』

今や、現代人にとって無視できない潮流となった脱炭素。環境・エネルギー×デジタルの専門家である著者がそのポイントを解説する。世界の富豪の脱炭素への投資額、欧・米・中の思惑などのトピックにふれながら、ビジネスパーソンが取り組むべき具体的な行動を提示している。

江田健二=著
PHPビジネス新書 / 2022年



5 『文化で地域をデザインする —— 社会の課題と文化をつなぐ現場から』

持続可能な地域づくりに「文化」のもつ潜在力は大きい。「地域デザイン」をキーワードとする本書にも、伝統工芸の海外展開と地域の誇り形成、商店街のアートスペース化、文化財と観光の新たな協働など、文化を核にしたアイデアが満載。小林氏 (30頁) が手がける「ものづくり+文化」に通じる内容は、地域の明日を考えるうえで役立つ。

松本茂章=編著
学芸出版社 / 2020年

